

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18530277

研究課題名 (和文) 中小企業における競争優位獲得とものづくり能力に関する研究

研究課題名 (英文) Manufacturing Capability Effectiveness and Competitiveness in SMEs

研究代表者

弘中 史子 (HIRONAKA CHIKAKO)

滋賀大学・経済学部・准教授

研究者番号：10293812

研究分野：経営学

科研費の分科・細目：経営学・経営学 (3701)

キーワード：中小企業, ものづくり

1. 研究計画の概要

本研究は、企業の競争優位の獲得を、ものづくり能力という観点から検討することを目的としている。特に、日本経済において大きな役割を果たす中小企業を研究の対象としているところに本研究の特徴がある。

ものづくり能力の検討にあたっては、技術面だけでなく、他の角度からも幅広く検討することとする。

2. 研究の進捗状況

本研究においては、以下のような進捗状況にある。

- (1) 技術面に関しては、中小企業が自社の技術力を向上させるだけでなく、さらにそれを競争優位に結びつけるためには何をなすべきかに焦点をあてて分析を進めている。具体的には人材育成や組織構造・組織プロセスのあり方を探っている。その際に、中小企業の経営資源が稀少であり、人力的・時間的余裕も少ないこと、急激な事業転換が困難であるという点を考慮し、既存技術を十分に活用しつつ、しかも日常的に取り組める手法を探るように留意した。
- (2) 技術面に加えて、マーケティングにかかわる側面についても分析を行っている。特に中小企業が、ビジネスプロセス全体で、顧客に価値を提供することをいかに意識するかを中心に探っている。
- (3) 競争優位に関連して、地域との関係構築という要素を取り入れて検討している。商圏が全国・世界に広がっている場合や、生産財を扱っている場合には、地域との関係構築をことさら意識していない場合

も多い。しかしながら、中小企業において、立地する地域の持つ意義を再確認したり、地域と新たな関係を構築することで、経営戦略の構築など、ものづくり能力の向上にポジティブな影響がもたらされることが明らかになった。

- (4) 中小製造業においてあまり触れられることのなかった環境経営という視点を取り入れ、それが競争優位にどのような影響をあたえるのかについても分析を進めている。

以上の研究を進めるにあたっては、関連する研究分野の文献等についてのレビューを行うと同時に、視察や調査などで実態を把握するように工夫した。研究で取り扱う事例についても、業種・業態の対象を広げ、より普遍的に検討できるように留意した。得られた研究成果については、書籍や論文の執筆を行ったり、学会報告を行ったりというかたちで、研究成果を発表することにもつとめた。

3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している。

(理由)

中小企業における競争優位獲得と、ものづくり能力に関して、ある程度幅広い角度から検討できているのではないかと考えている。また書籍や論文執筆、学会報告というかたちで、研究成果を発表することにもつとめたため、上記のように判断した。

4. 今後の研究の推進方策

前年度に引き続き、ものづくり能力を強化するための方法、およびそれが競争優位にどのように貢献するのかを探っていく。本年度

は、技術面についての考察を深めるとともに、中小企業のものづくりにおける顧客への価値提供のあり方、および環境経営によってもたらされる効果といった点について、さらに検討を重ねていくこととする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

①弘中史子「地域が中小企業にもたらす可能性－近江の企業の事例から－」『中小企業季報』, pp.13-21, 2006年.

②弘中史子「中小企業と戦略の構築」『日本中小企業学会論集』第27巻, pp224-237, 2008年(査読有).

〔学会発表〕(計1件)

①弘中史子「中小製造業における技術者の育成に関する試論」組織学会中部部会, 2009年3月21日(名古屋大学)

〔図書〕(計2件)

①弘中史子『中小企業の技術マネジメント』中央経済社, pp. 1-190, 2007年

②吉田孟史・涌田幸宏・弘中史子・寺澤朝子・今田聡『コミュニティ・ラーニング－組織学習論の新展開』ナカニシヤ出版, pp. 65-86. 2008年.